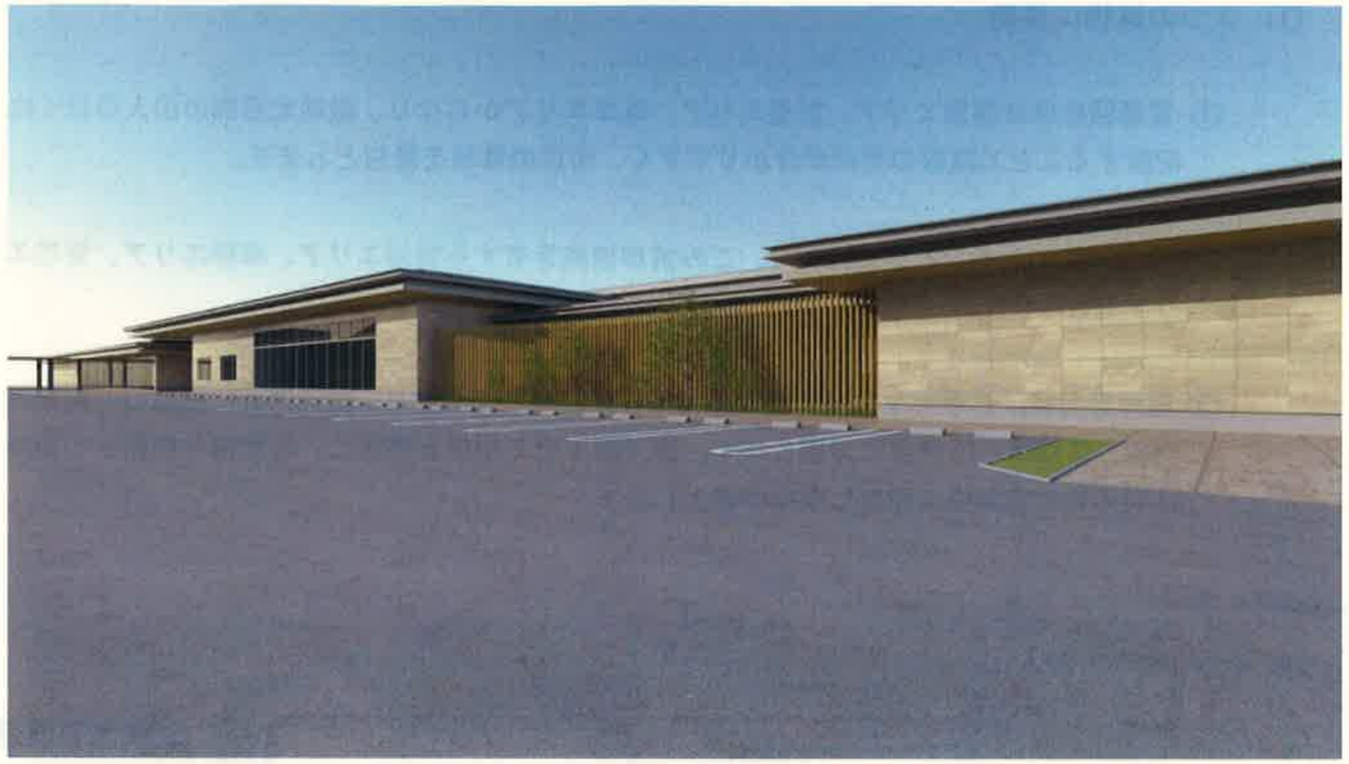
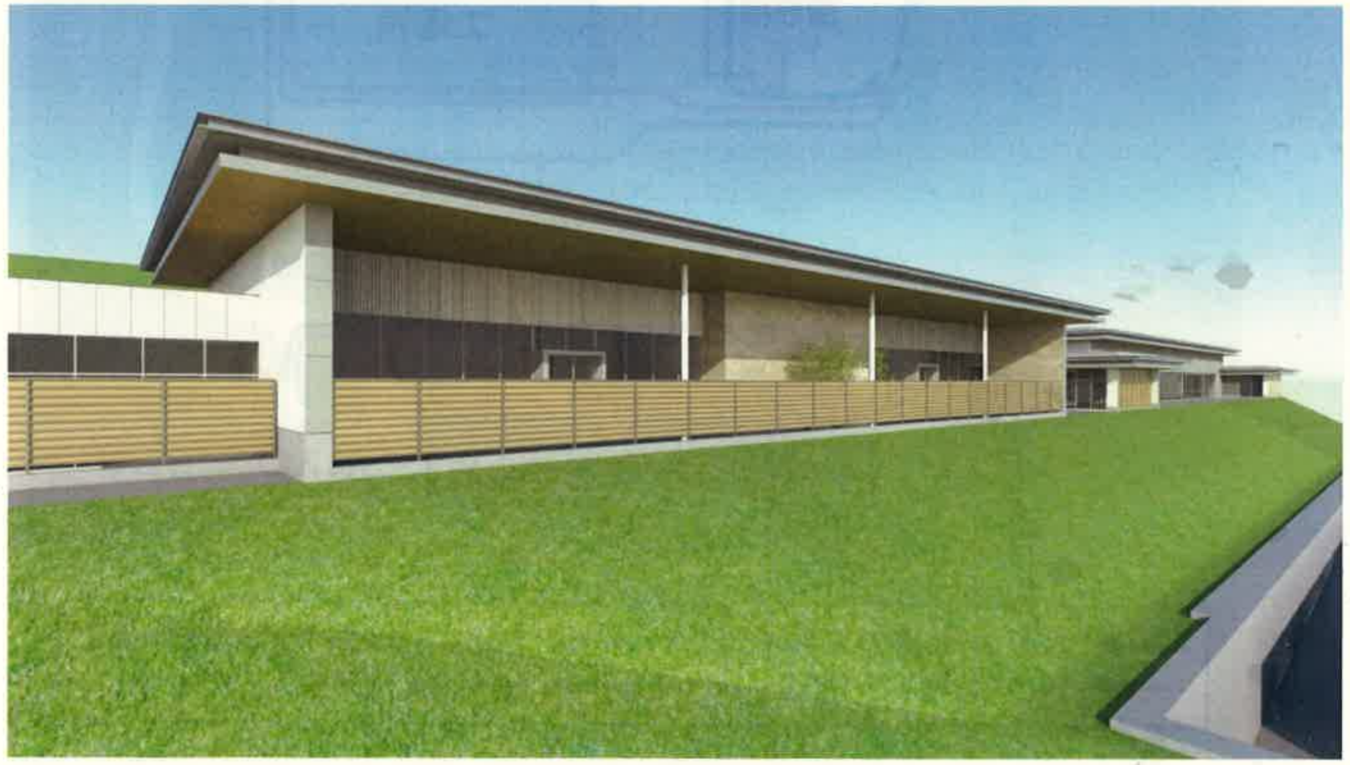
南東側より（全体）



北西側より（循環啓発棟）



南西側より（循環啓発棟）

建築概要

(1) 構造 階数

・鉄骨造　地上１階

(2) 計画面積

	余熱利用体験エリア	修理再生エリア	合　計
建築面積	2, 089. 95㎡	1, 691. 09㎡	3, 781. 04㎡
延床面積	1, 937. 75㎡	1, 550. 90㎡	3, 488. 65㎡

※共用ゾーン 77. 06 ㎡は修理再生エリアに含む。

施設完成のイメージ

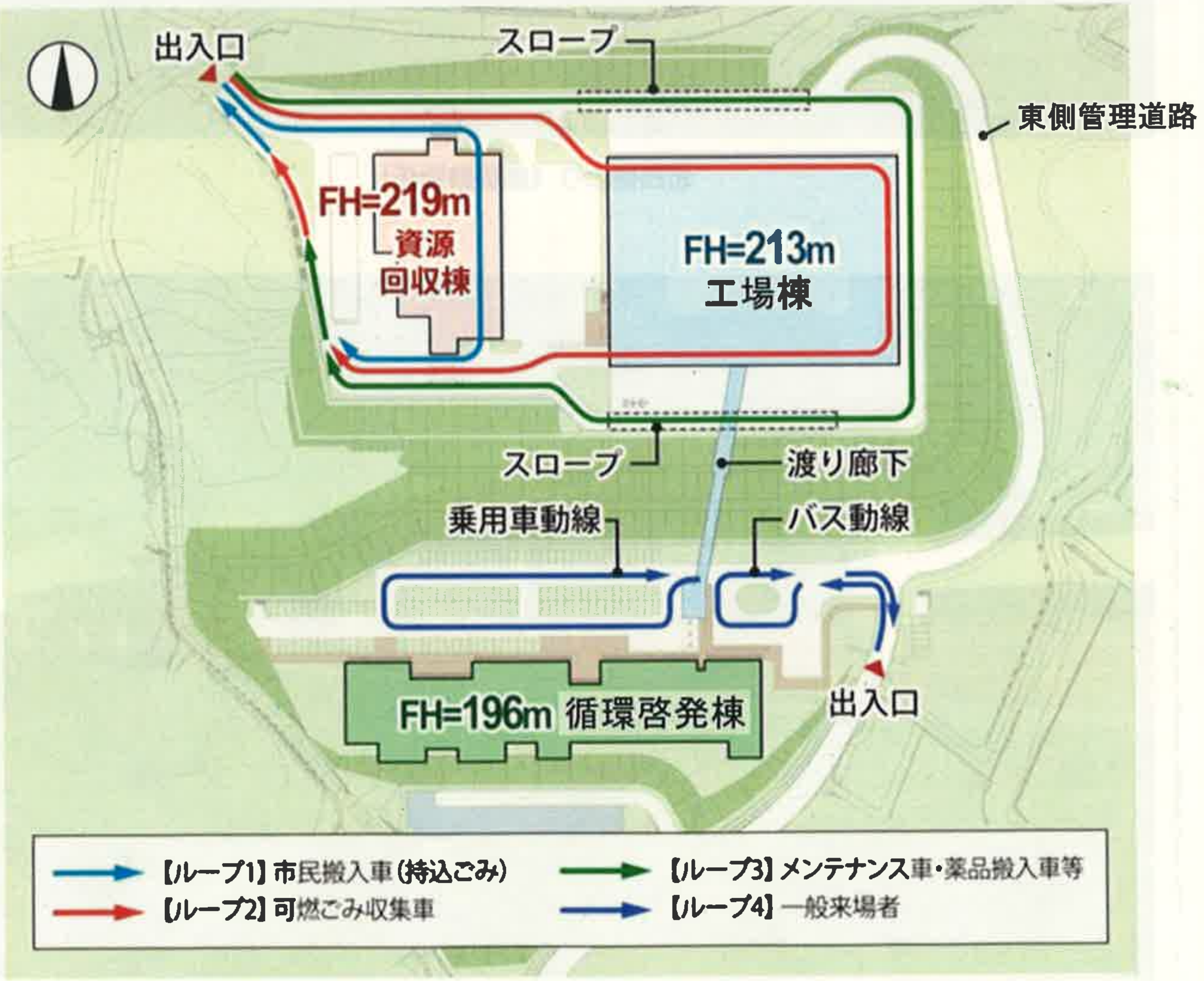
1．全体配置計画

(1) ３つの建物に集約

① 資源回収棟は選別エリア、計量エリア、車庫エリアからなり、敷地北西部の出入口近くに配置することで施設の受付が分かりやすく、市民の動線を最短とします。

② 工場棟は、メインとなる建物で、ごみ焼却機能を有する焼却エリア、破砕エリア、管理エリアを含みます。

③ 循環啓発棟は修理再生エリアと余熱利用体験エリアからなり、敷地南部に配置し、資源回収棟、工場棟とは完全に分離します。渡り廊下で工場棟と接続し、駐車場を横断する箇所は利用者の安全性に配慮し空中歩廊とします。



全体配置図

(2) 循環啓発棟の配置計画

・南側市道から専用出入り口を設け、ごみ収集車等の動線と分離し、一般来場者に限定とします。

・バスと一般車両のエリア分けを行い、交錯を回避します。

・路線バスが乗り入れ可能なバス動線とします。

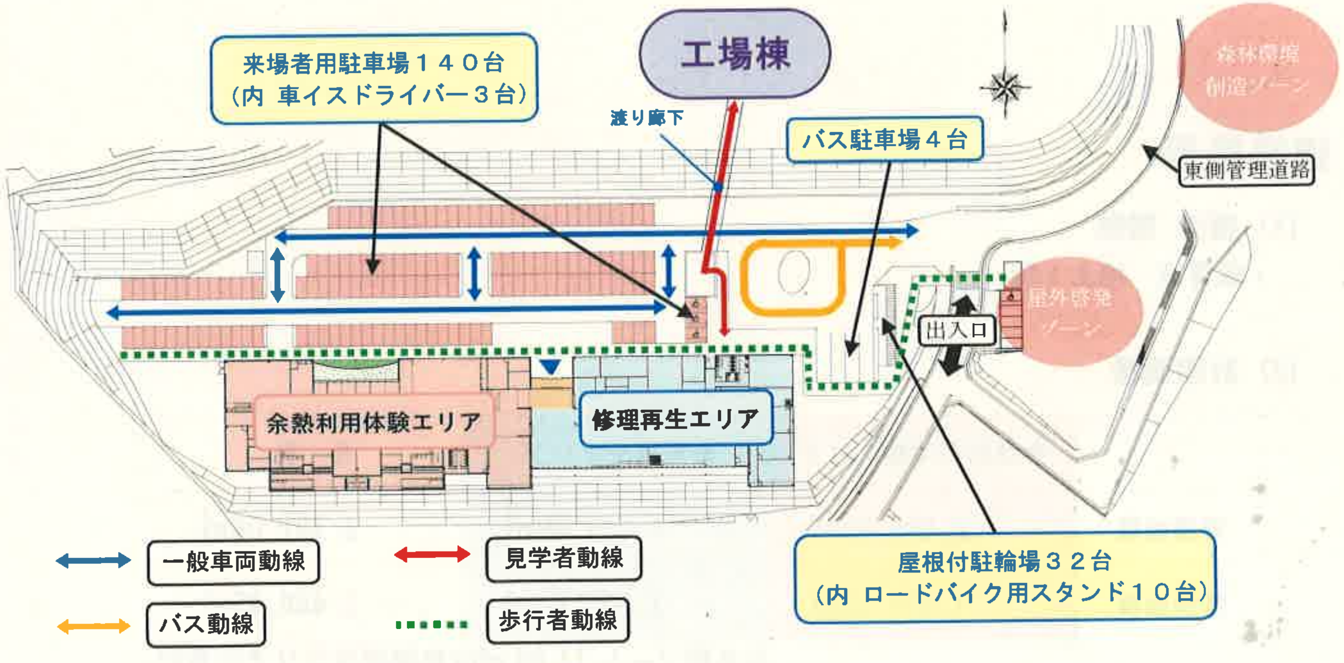
・シンプルな動線により見通しが良く安全な駐車場とします。

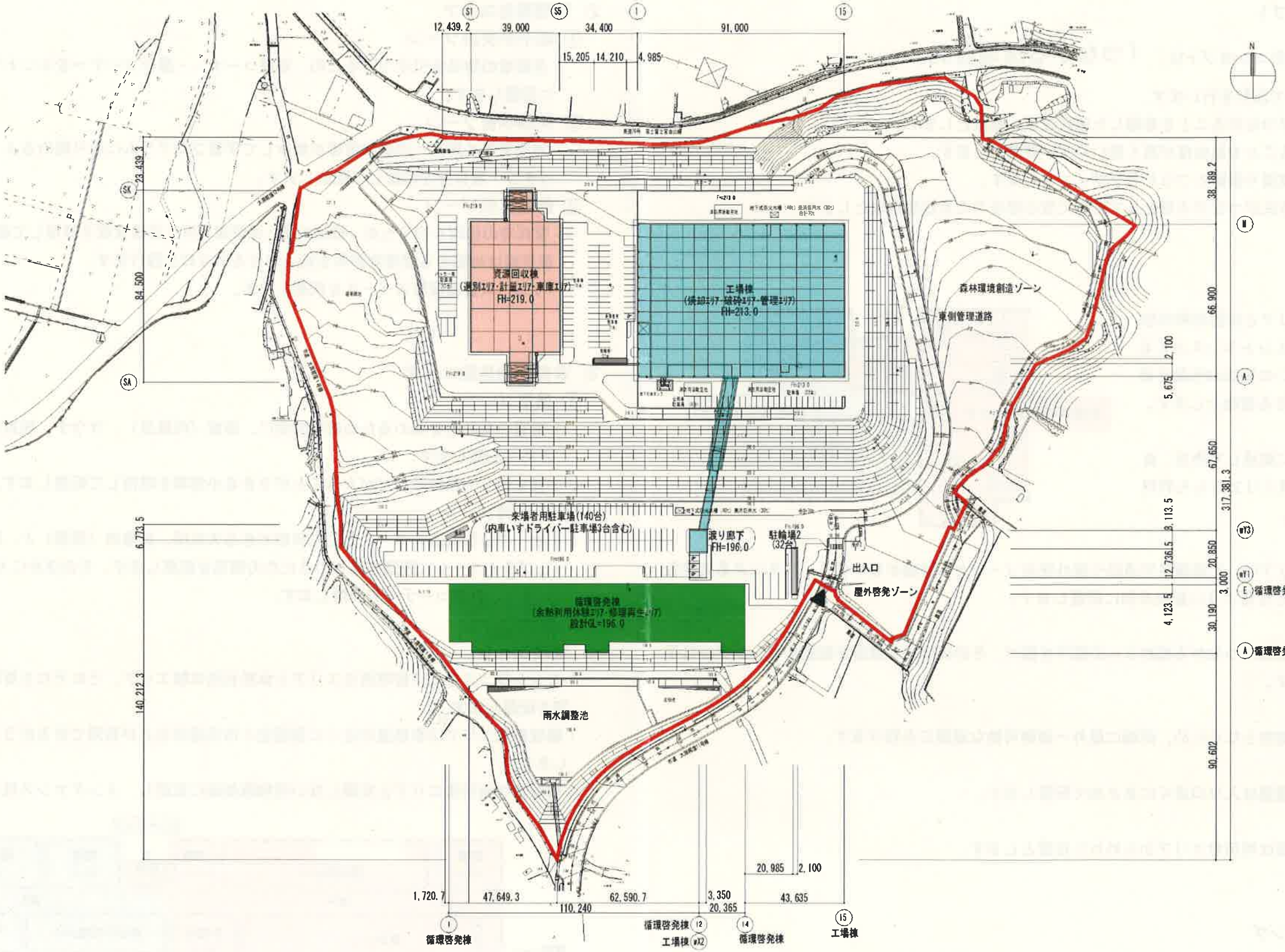
・来場者用駐車場は１４０台確保（内　車いすドライバー駐車場３台）及び駐輪場を設けます。

・車いすドライバー駐車場から建物への動線を短くし、庇を設置し天候に左右されないアプローチを可能とします。

・屋外啓発ゾーンへつながる歩道を設けます。

・資源回収棟で収集した家具等を運搬するための東側管理道路を設けます。





全体配置図　S=1/2000

2. 平面計画・内部ゾーニング概要

(1) 設計コンセプト

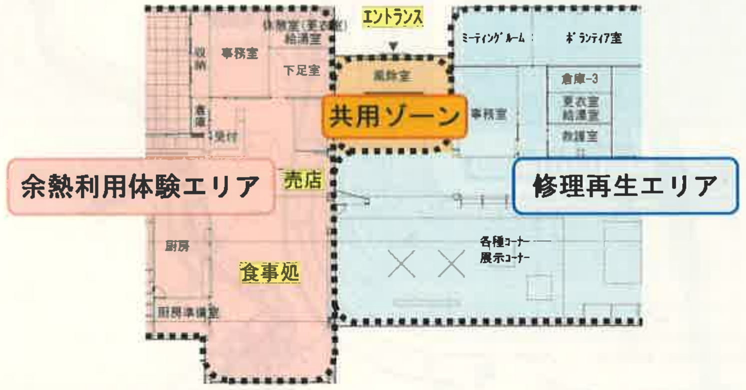
循環啓発棟の設計コンセプトは、「つながる環境啓発」とし、

次の４つの方針で設計を行います。

- 各機能がつながることを意識した施設配置・動線とします。
- つながることで自由度が高く使いやすい空間とします。
- 周囲の眺望や景観とつながるデザインとします。
- 多くの市民がつながる場として安全で安心感を与える施設構成とします。

(2) 平面計画

① 修理再生エリアと余熱利用体験エリアの共通エントランスとすることで、お互いの施設の活動を感じることができる建物とします。



② 共用ゾーンに隣接して売店、食事処を設け、両エリアからも利用可能とします。

③ 修理再生エリアは、工場棟見学通路や屋外啓発ゾーンとの連携がしやすく、バスによる見学者の動線が最短となるように建物東側に配置します。

④ 建物中央に東西につながる幅約３mの廊下を設け、その両脇に各諸室を配置するシンプルな平面構成とします。

⑤ 東西に長い建物となるため、両端に屋外へ避難可能な避難口を設けます。

⑥ 主要な管理諸室は入り口近くにまとめて配置します。

⑦ 機械室、倉庫は利用者エリアから外れた位置とします。

(3) 内部ゾーニング

1) 共用ゾーン

・エントランスを修理再生エリアと余熱利用体験エリアの間に挟まる位置に配置します。

2) 修理再生エリア

① 賑やか交流ゾーン

・来館者の興味を引きつけるため、各種コーナー・展示コーナーをエントランスと一体空間に配置します。

② 体験学習ゾーン

・施設見学や講座への参加者等が集中して学習プログラムに取り組めるよう、多目的室・キッチン・実習室を隣接して配置します。

③ 修理再生ゾーン

・家具等の修理を行うため、修理工房・保管庫・再生品保管庫を隣接して配置します。また、保管庫は外部から直接家具等を搬入できる入り口を設けます。

・リユース食器保管スペースを配置します。

3) 余熱利用体験エリア

① 温浴ゾーン

・浴室の独立性を高めるため建物南側に、浴室（内風呂）、サウナ、脱衣室、露天風呂をまとめて配置します。

・貸し切りや高齢者などが入ることができる小浴場を隣接して配置します。

② 多目的ゾーン

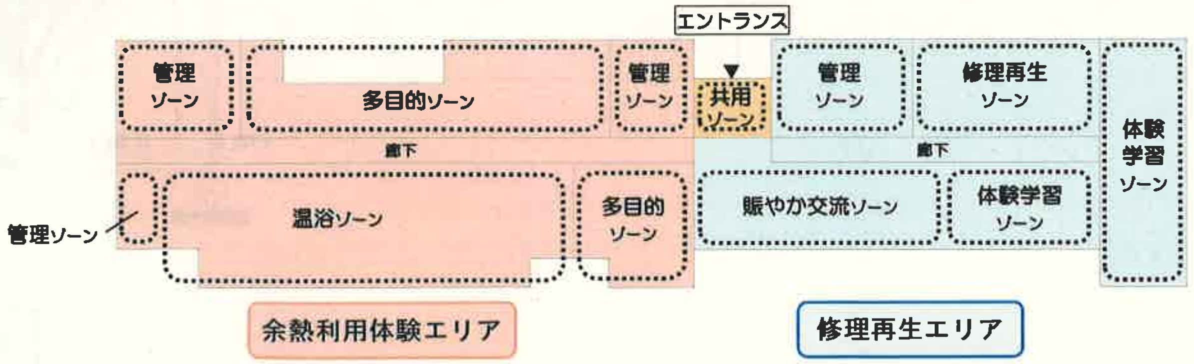
・オープンな交流スペースとして利用できる大広間、食事処（厨房）と、周囲の視線に配慮しプライベートに団欒を楽しめるための個室を配置します。そのほかにも、売店、自販機コーナー、休憩コーナーを配置します。

4) 管理ゾーン

・エントランス近くに修理再生エリアと余熱利用体験エリア、それぞれを管理するための事務室を配置します。

・修理再生エリアは事務室の近くに救護室と市民団体などが利用できるボランティア室を配置します。

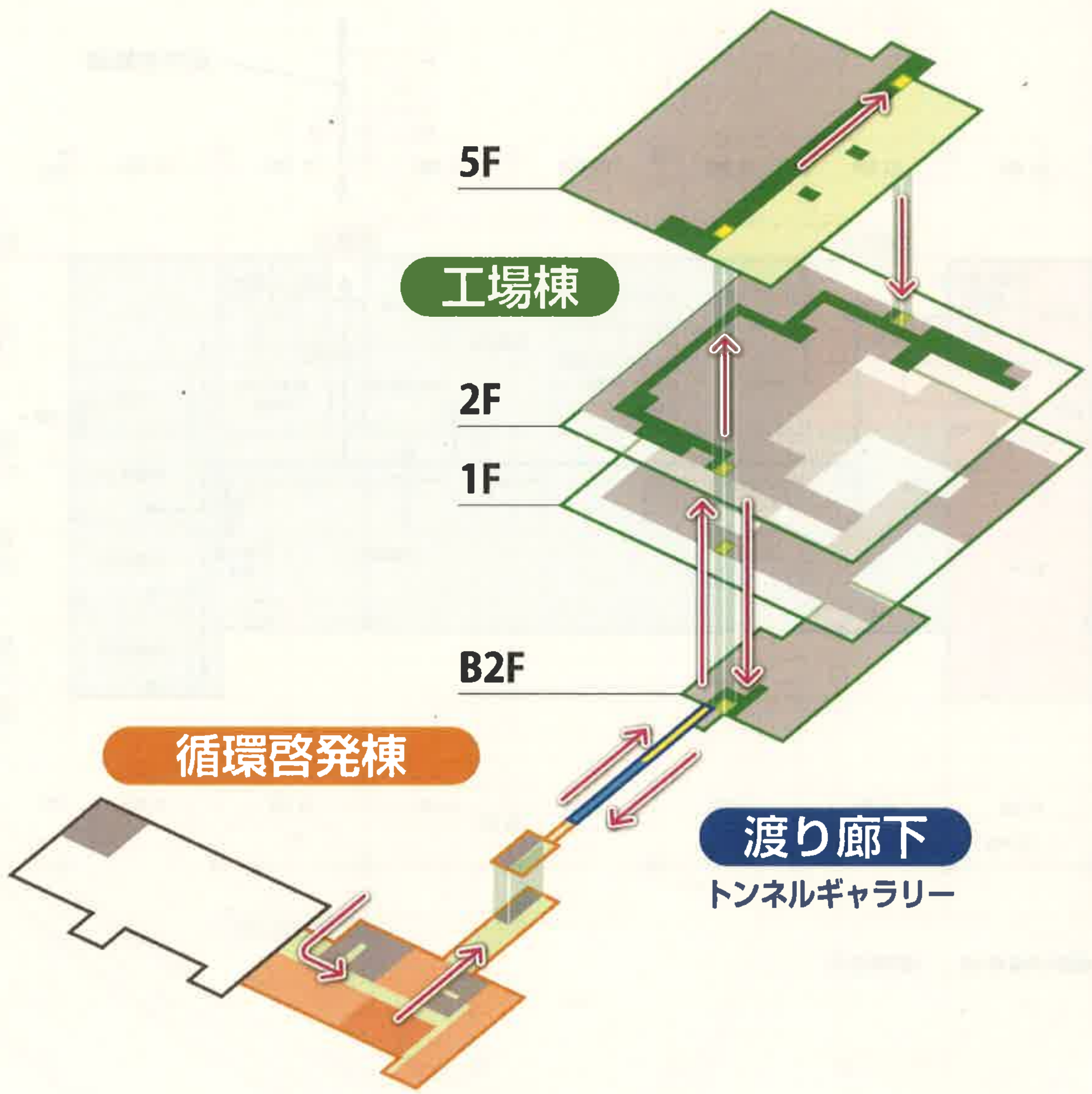
・機械室は利用者エリアと交錯しない建物西側端に配置し、メンテナンス性も確保します。



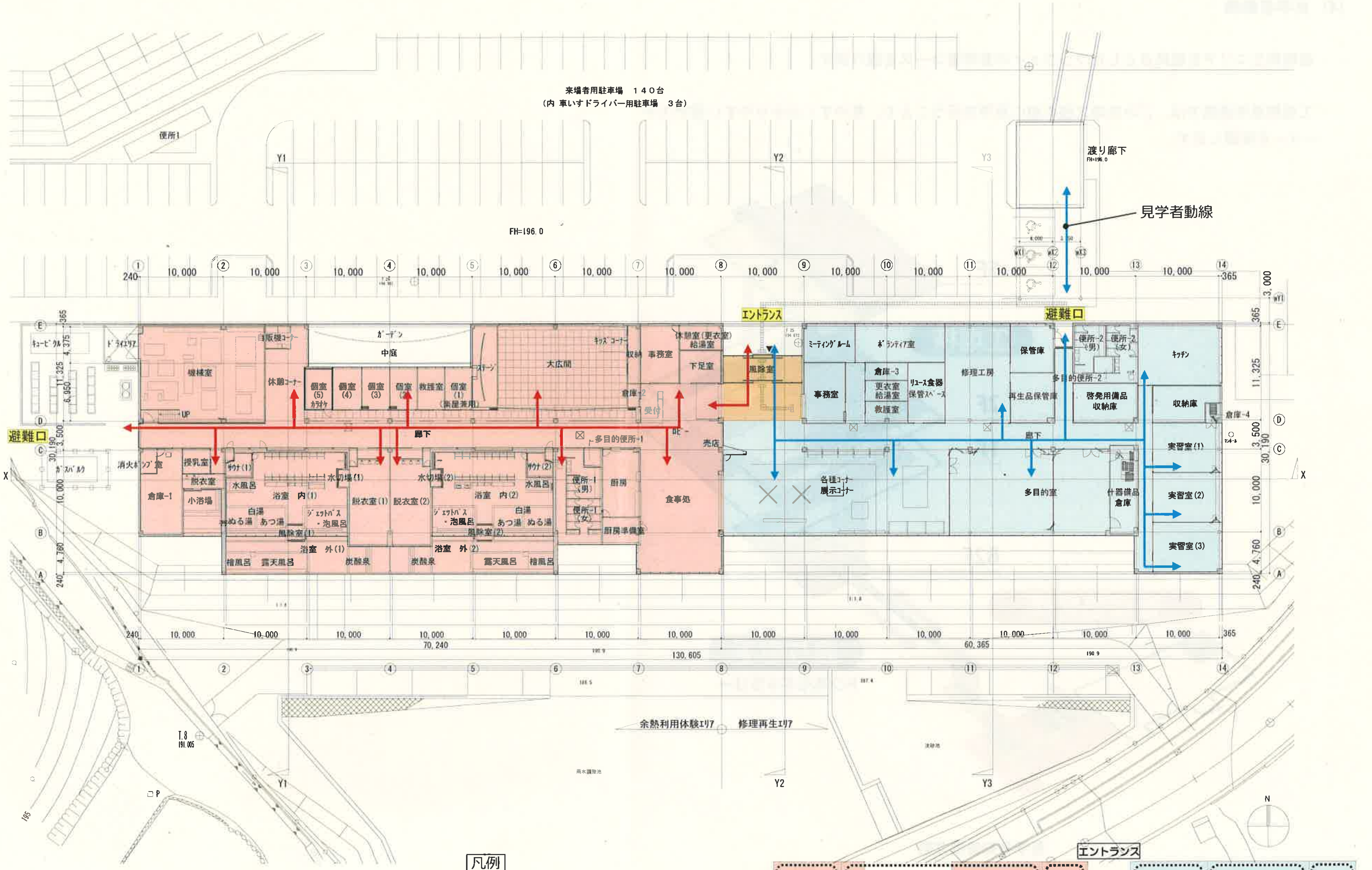
(4) 見学者動線

・修理再生エリアを起終点としたワンウェイの見学者コースを設けます。

・工場棟見学通路では、ごみ処理工程の順に見学を行うことで、見やすく分かりやすい見学ストーリーを実現します。



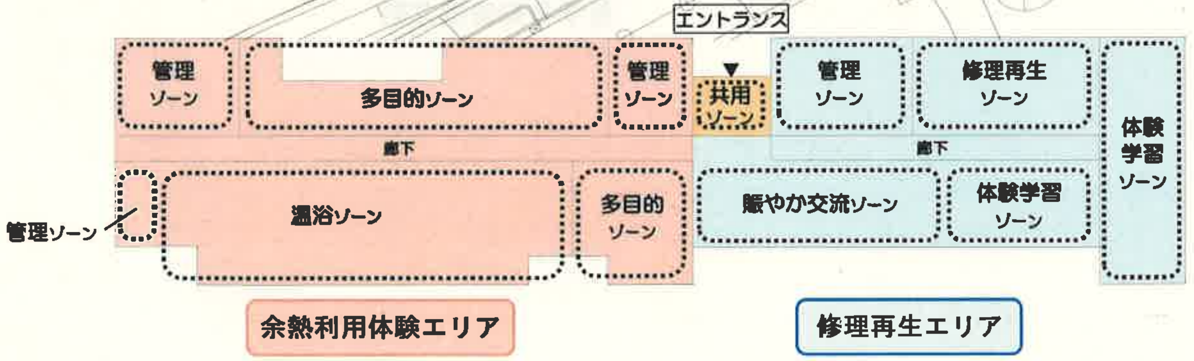
見学者動線概念図



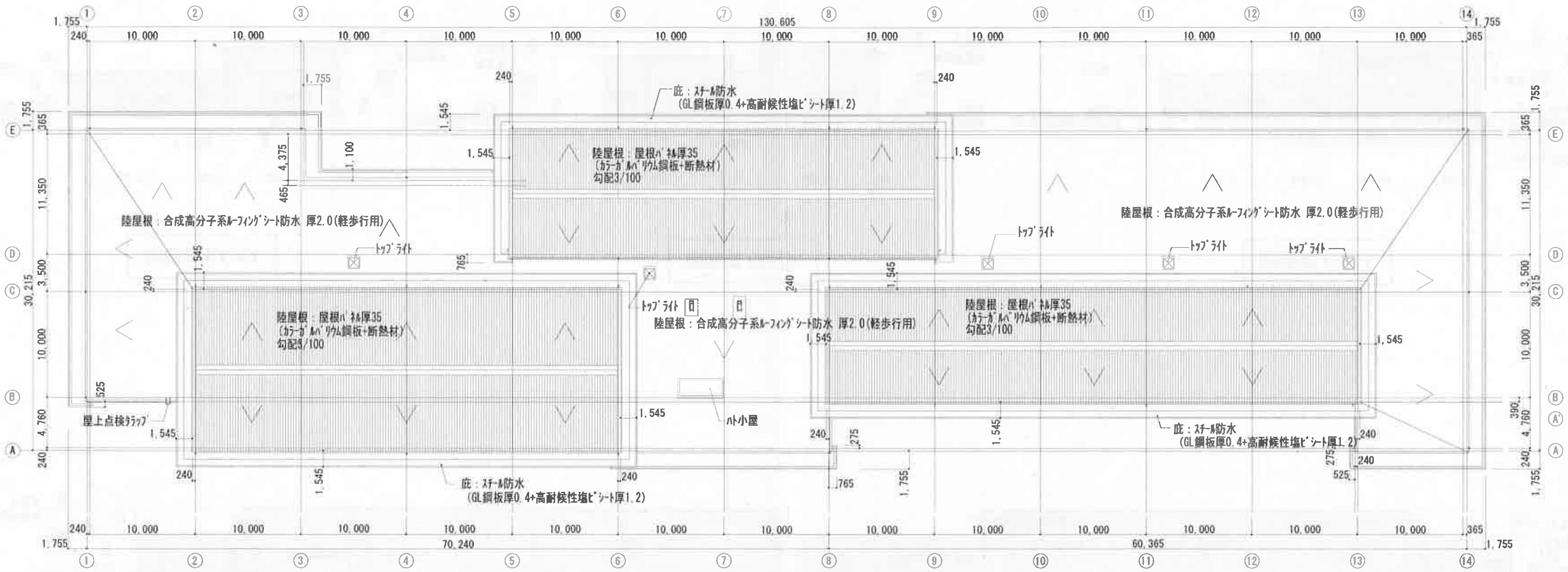
凡例

余熱利用体験エリア動線

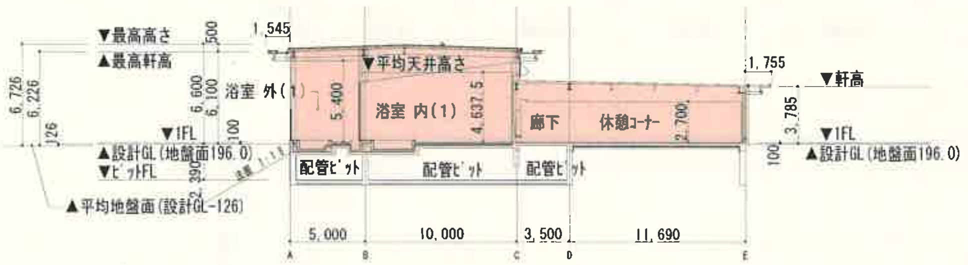
修理再生エリア動線



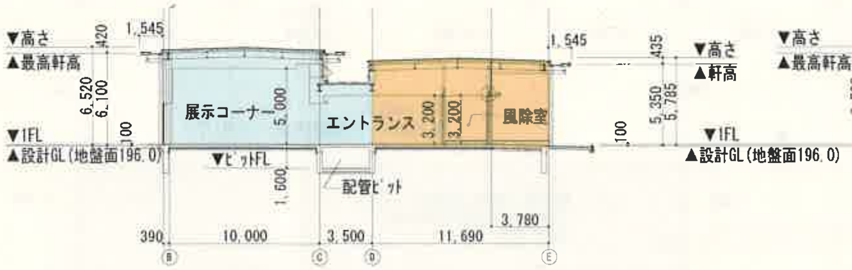
平面図　S=1/500


陸屋根：合成高分子系ルーフィングシート防水 厚2.0(軽歩行用)
陸屋根：屋根パネル厚35
(カラーガルバリウム鋼板+断熱材)
勾配3/100
庇：スチール防水
(GL鋼板厚0.4+高耐候性塩ビシート厚1.2)
トップライト
屋上点検タラップ
ハト小屋
130,605
70,240
60,365
30,215

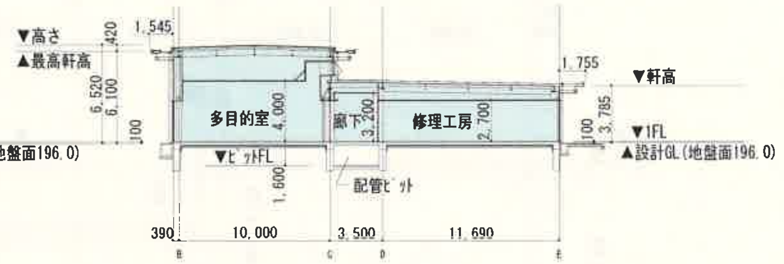
屋根伏図　S=1/500



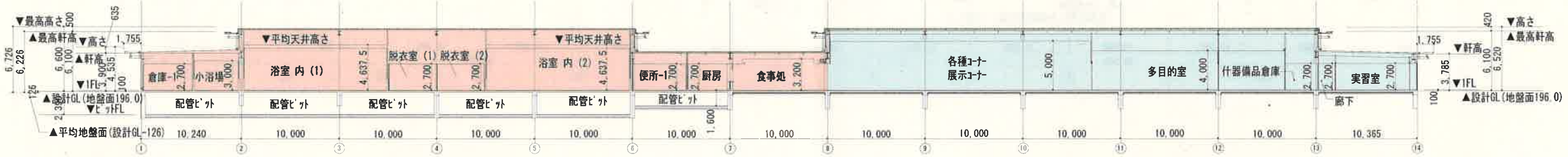
Y1-Y1 断面図



Y2-Y2 断面図

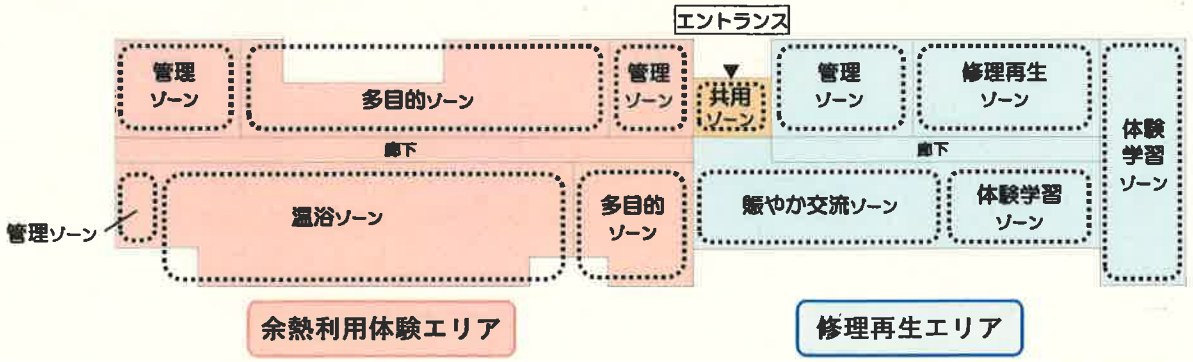


Y3-Y3 断面図



X-X 断面図

断面図　S=1/500



3. 空間計画

(1) 共用ゾーン

1) エントランス

・サイネージシステムを導入し、イベント情報などを日々更新します。

※イメージ

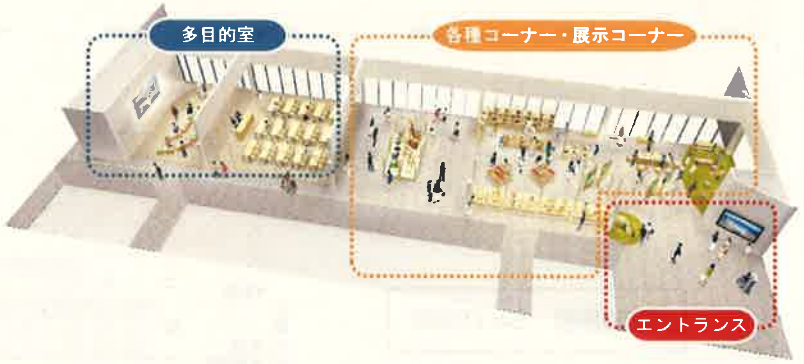
(2) 修理再生エリア

・各種コーナー、展示コーナーは天井高５ｍの開放的な空間とし、多目的室の移動間仕切りを収納することにより、一体的な大空間としての利用を可能とします。

・連続したオープンな交流スペースを確保し、初めて訪れた方が活動に加わりたくなる仕掛けづくりを行います。

・施設の賑わいを維持し、使い続けてもらえるよう、展示什器類は可動式を基本として、大空間を要する大規模な企画展から日々の市民の活発な利用まで自由度の高い運営を可能とします。

・実習室と多目的室は、移動間仕切りを採用し、様々な用途向けにレイアウトチェンジができるフレキシブルなしつらえとします。



※イメージ

① 空間を一体的に活用

② 企画展示+シアター

③ 多目的室を単独で活用

④ 多目的室を区切って活用

(3) 余熱利用体験エリア

1) 温浴ゾーン

・浴室には、他施設でも人気の設備を導入します。

・室内には白湯、水風呂、サウナ、ジェットバス、泡風呂、室外には炭酸泉、露天風呂、檜風呂を配置します。

・浴室の壁面は富士山をモチーフにしたデザインを計画します。

※浴室イメージ

2) 多目的ゾーン

・大広間にはステージ、収納等を計画し様々な利用形態に対応可能な空間とし、個室を並べて配置することにより、ステージ裏から出入りすることで控室としての利用も可能です。また、廊下との境の建具は全面開放可能な計画とし、室内にとどまらず展開可能な計画とします。

・個室は中庭の緑に面し、独立させた計画とします。周囲の視線に配慮したプライベートに団欒を楽しめる空間とします。また、移動間仕切りにより、利用目的に応じて利用できます。

・食事処と修理再生エリアの各種コーナーや展示コーナー等の他の機能間は間仕切りを設けない連続空間とします。

・交流の場を施設全体への拡張することが可能なスペースとします。

(4) 富士檜を活用した落ち着きのある内観デザイン

・交流空間は富士檜による木質化を図り、仕上げに木を効果的に使用することで、利用者をリラックスさせ、落ち着いた空間を演出します。また、木質化により部屋に暖色系の色合いを取り入れ、暖かみのある空間とします。

※ロビー・食事処イメージ

※廊下イメージ

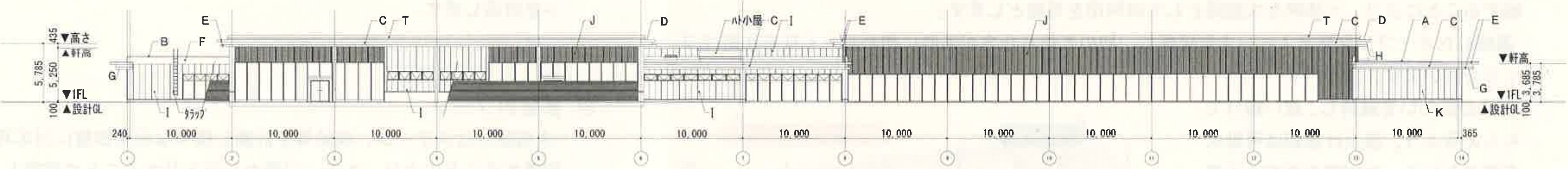
4．外観デザイン

・施設全体を平屋で計画することにより上下階の移動がなく、平面的な移動によって完結する建物とします。
・高さをできるだけ低く抑えた平屋とし、周辺環境と違和感のない調和のとれた外観とします。
・軒を大きく出し、軒天井を富士檜で仕上げることにより、利用者をやさしく受け入れる広い軒下空間を設けます。
・自然が持つ色合いと建物の素材を活かした色合いと調和を図ります。

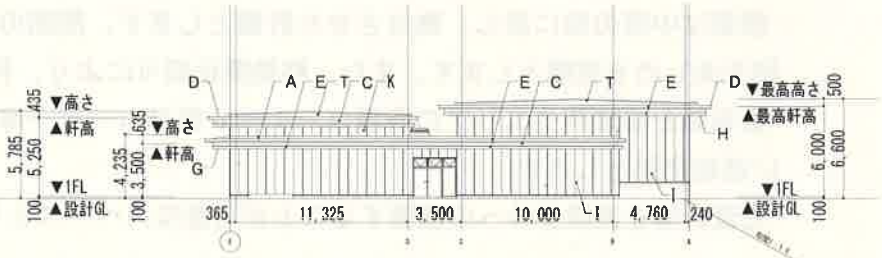
南西側より

南東側より

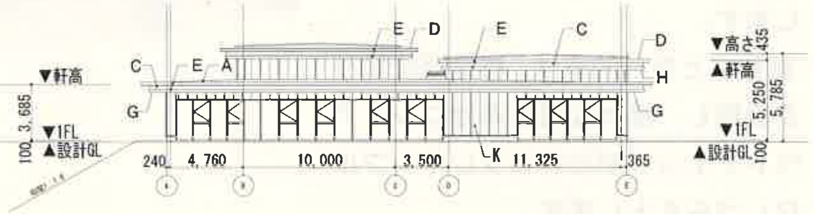
南立面図　S=1/500



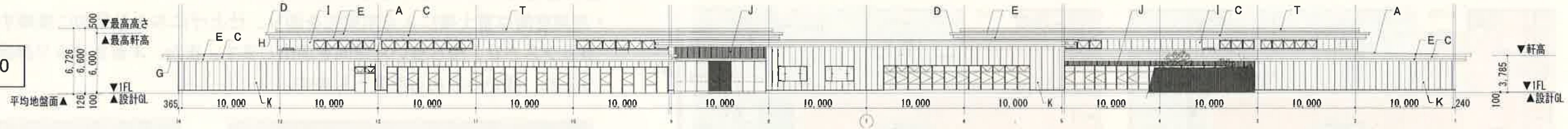
西立面図　S=1/500



東立面図　S=1/500



北立面図　S=1/500



外部仕上表

屋根	A	陸屋根：合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水　厚2.0
	B	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ立上り　ｼｰﾄ防水立上
	T	屋根ﾊﾟﾈﾙ(ｶﾗｰｶﾞﾘﾊﾞﾘｳﾑ鋼板+断熱材)
軒先	C	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板　角波15×15　厚0.4
	D	ｽﾁｰﾙ防水　(ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板厚0.4+高耐候性塩ﾋﾞｼｰﾄ厚1.2)
	E	ｽﾁｰﾙ鋼板　厚6.0　耐候性塗料塗り
	F	屋根部：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しのうえ　ﾌｯ素撥水性ｺﾝｸﾘｰﾄ用ｸﾘｱｰ塗料塗り
軒天井	G	富士檜羽目板　厚12.0　木材保護塗料塗り
	H	化粧珪酸ｶﾙｼｳﾑ板(木目)　厚6.0
外壁	I	押出成形ｾﾒﾝﾄ板厚60　ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ　縦張り　光触媒塗料塗り(工場塗装)
	J	押出成形ｾﾒﾝﾄ板厚85　ﾘﾌﾞﾊﾟﾈﾙ　縦張り　ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂塗料塗り(工場塗装)
	K	押出成形ｾﾒﾝﾄ板厚60　縦張り　+　磁器質ﾀｲﾙ　厚9.0(接着貼)

北東側より

※エントランスイメージ

北西側より

5．安全・安心

(1) バリアフリー

・つながる啓発施設として、来場者が行き来する動線のバリアフリー化には特に配慮します。

1) コンセプト

・「高齢者や障害者等にとって使いやすいとは、健常者にとっても使いやすいこと」を理念に、全ての人にとっての物理的、精神的バリアを取り払うため、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ計画します。

2) バリアフリー新法、静岡県福祉のまちづくり条例に基づく各部計画

・老若男女に応じて安全に利用できる計画とします。
・屋外から建物内、廊下から室内のアプローチ等、あらゆる場所の段差を排除し、滑らない安全な床とします。
・車椅子・ベビーカーの車輪が引っかからないよう、そして女性のヒールがつまらないよう、安全に利用できる計画とします。
・サインは大きくて見やすく、わかり易いものとします。
・多目的便所はオストメイト対応とします。

(2) 建物の耐震設計と構造概要

1) 耐震設計

・重要度係数 I=1.25、地域係数 Z=1.2 により必要保有水平耐力の割増（建築基準法の 1.5 倍）を行い、耐震安全性を確保します。

2) 構造概要

・地上１階で大空間の確保に有利な鉄骨造（Ｓ造）とします。そのため、避難時には階段を使用することなく、安全に屋外への避難が可能となります。
・長寿命建築物として耐久性・メンテナンス性にも配慮した材料を選定します。

(3) 災害時における電気、温水の利用

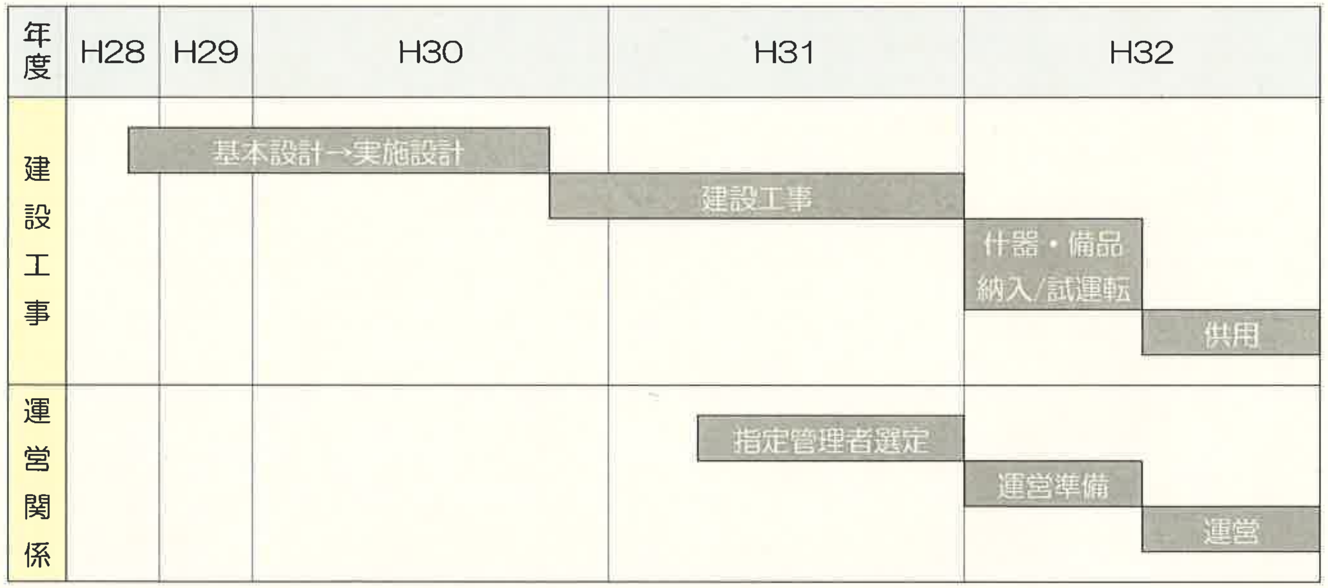
・災害時にも工場棟から余熱による電気と温水が供給されます。
・市民生活を支援するため、浴室を市民の皆様が利用できるように運用します。

(4) 福祉避難所としての活用

・余熱利用体験エリアは、施設の機能を最大限に活かし、福祉避難所として活用ができます。

(5) 浴室における感染症対策

・静岡県条例に基づいた全自動レジオネラ対策システムを採用します。
・「レジオネラの根絶」「肌への刺激減」を可能とし、さらに維持管理費（人件費）の最小化も合わせて図ります。

全自動レジオネラ対策システム

6．スケジュール